

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	②首里城公園の管理体制の強化と首里杜地区の歴史まちづくりの推進
			施策の小項目名	○「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの実現
主な取組	首里城跡景観整備事業		対応する成果指標	首里城公園来場者数
施策の方向	・首里城を中心とした首里杜地区において、「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの実現に向けて、行政・有識者・住民・企業等の関係者が連携して、自然・歴史・文化を感じる景観の創出に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)		実施主体	年度別計画		
			活動指標(アウトプット)		
			R4	R5	R6
首里城跡の景観を著しく損ね、経年劣化等で危険度が増している箇所の修復工事を行い、景観の保全と安全性の確保を図る。		県	景観を阻害し危険度の高い箇所の修復保全	景観を阻害する箇所の調査及び修復保全	
			首里城跡の景観を保全するための整備件数(累計)		
			1件	1件(2件)	1件(3件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		首里城跡景観整備事業			予算事業名		首里城跡景観整備事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
一括交付金 (ソフト)	直接実施	10,875	14,807		一括交付金 (ソフト)	直接実施	39,084	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
前年度からの繰越事業として南城郭石積みの修復工事を進め、新たに継世門櫓の修復工事も実施した。					前年度に引き続いて南城郭石積みと継世門櫓の修復工事を進めるとともに、歓会門櫓及び久慶門櫓の修復に係る調査業務委託を実施する。			

活動指標名		首里城跡の景観を保全するための整備件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	1件	1件	1件（2件）	100.0%	概ね順調		
南城郭石積み及び継世門櫓の修復工事を実施した。前者は事故繰越が不承認となったため本年度で一時中止となったが、後者は次年度に繰り越した。								

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○南城郭石積み修復工事の事故繰越が不承認となったため、当該工事は一時中止となった。また継世門櫓修復工事は次年度に繰り越した。 ○南城郭石積みの解体・積み直し等や継世門櫓、守礼門の修復保全を実施することで、首里城跡周辺住民や観光客への危険性を除去することができるとともに、公園来園者や周辺住民は往事の景観を体感することが可能となる。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○当該事業は文化財の修復であるため、公園管理者等や文化庁との綿密な協議を行いながら、事業を円滑に進める。 ○文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されていることから、現在国が進めている首里王正殿等復元工事と競合することがないよう、今後の事業計画を検討する。	○令和8年の完成を目指して行われている首里城正殿の復元工事に先立ち南城郭石積みの解体・積み直し等や継世門櫓、守礼門の修復保全を実施することで、首里城復興の気運が高まる。 ○現在、令和4年度に策定された首里杜地区整備基本計画に基づき、国・県・那覇市等で各種の取組が進められているが、当該事業を実施することで、公園利用者や周辺住民に往事の景観を体感させることが可能となる。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	当該事業は文化財の修復であることから、事業を円滑に進めるには公園管理者等だけでなく文化庁との綿密な協議が必要となる。	① 執行体制の改善	当該事業は文化財の修復であるため、公園管理者等や文化庁との綿密な協議を行いながら、文化財としての価値を毀損せず安全性が確保できるように事業を進める。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されているため、現在国が進めている首里城正殿等復元工事と競合することがないよう、今後の事業計画を検討していく必要がある。	② 連携の強化・改善	文化財の修復工事に対応可能な業者が限定されていることから、現在国が進めている首里王正殿等復元工事と競合することがないよう、発注時期の調整や事業計画の見直しなどを検討する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	②首里城公園の管理体制の強化と首里杜地区の歴史まちづくりの推進
			施策の小項目名	○歴史文化遺産の計画的な整備や歴史・文化を体験できる行催事等の推進
主な取組	円覚寺跡三門復元整備事業		対応する成果指標	首里城公園来場者数
施策の方向	・ 県営公園内の中城御殿跡や円覚寺跡等の歴史文化遺産の計画的な整備や、歴史・文化を体験できる行催事等を推進し、首里城公園の魅力の向上を図るとともに、御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的な整備について、事業主体や保存に係る調査等の課題解決に向けて、那覇市、国と連携して実現可能な方策や観光資源としての利活用の検討に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)		実施主体	年度別計画		
			活動指標(アウトプット)		
			R4	R5	R6
国指定史跡である円覚寺跡の公開活用に向けて、発掘調査の成果や古写真等の資料を手がかりに、石牆及び三門の復元に取り組む。		県	円覚寺に存在した木造建造物の三門の復元整備	三門の復元工事の完成並びに、円覚寺の境内の文化財の整備事業に向けた事業計画の策定	
			円覚寺跡三門復元整備		
			復元工事	三門完成	三門公開
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名		円覚寺跡総合活用整備事業			予算事業名		円覚寺跡総合活用整備事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
各省計上	直接実施	86, 547	39, 140		各省計上	直接実施	55, 493	
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
三門本体の上層22箇所の斗拱の製作と、木鼻及び実肘木の彫刻を実施した。					三門本体一層部分の建築及び木材の加工・購入等を実施する。			

活動指標名		円覚寺跡三門復元整備		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	復元工事	復元工事	復元工事	三門完成	50. 0%	大幅遅れ	三門本体の復元工事に向けて、木材の購入や部材の製作・彫刻を実施した。文化財保護法や建築基準法第3条適用の除外に伴う許認可は令和3年度に受けているため、次年度から復元工事に着手する準備を整えた。	

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○三門本体の復元工事に向けて、木材の購入や部材の製作・彫刻を実施するとともに、文化財保護法や建築基準法第3条適用の除外に伴う許認可を受け、工事の発注準備を整えた。首里城正殿の火災後の影響で三門にも防災防火設備の設置が必要とされているが、復元工事を進めながら検討を行っていく予定である。 ○進捗状況は、文化庁の予算措置が困難で事業費が不足していることから、「大幅遅れ」となっている。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○文化庁と三門背後の境内の整備計画の策定の必要性および重要性について、引き続き協議する。 ○これまでに県内の史跡等で整備計画等の策定を受注した業者の情報等を収集する。 ○今後、文化庁の補助を受けるために国庫補助事業の計画を立案し、引き続き要望する。	○かつて、境内にあった建造物の復元に向けて、首里城正殿等の火災等の状況を基本に円覚寺跡復元整備委員会にて、防火防災設備を検討する必要がある。 ○令和3年度に策定した保存活用計画や、これまでの情報収集の成果を受け、円覚寺跡の整備計画等を策定する必要がある。 ○現在復元工事を進めている円覚寺三門に引き続き、今後の境内の整備や活用方法について、整備委員会で検討する必要がある。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	三門の復元後、かつて境内にあった建造物の復元に向けて、首里城正殿等の火災等の状況を基本に円覚寺跡復元整備委員会にて、防火防災設備について検討する必要がある。	② 連携の強化・改善	文化庁と三門背後の境内の整備計画の策定の必要性及び重要性について、引き続き協議を行う。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	現在復元工事を進めている円覚寺三門に引き続き、今後の境内の整備や活用方法等について、整備委員会で検討する必要がある。	③ 他地域等事例を参考とした改善	これまでに県内の史跡等で整備計画等の策定を受注した業者の情報等の収集を行う。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	首里城正殿等火災があったことから、円覚寺に所在する建造物の復元計画に基づき、円覚寺跡復元整備委員会において、防火防災設備の計画を策定し、審査を受けたい。		

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に係る文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○首里城正殿遺構の保護対策や公開
主な取組	首里城正殿遺構の適切な保護及び公開		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・世界遺産である首里城正殿遺構については、損傷の状態を的確に把握し、国と連携しながら保護対策や公開に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)		実施主体	年度別計画		
			活動指標(アウトプット)		
			R4	R5	R6
世界遺産である首里城正殿遺構について、損傷の状態を的確に把握し、国と連携しながら保護対策や公開に取り組む。		国県	正殿復元工事開始時期までの公開	正殿復元工事に伴った覆砂による正殿遺構の保護(再公開は正殿復元完成后)	
			沖縄総合事務局が実施する水分量計測のデータを基にした「遺構水分量計測値チェック」の実施回数		
			月1回	月1回	月1回
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	—				予算事業名	—	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	
—	—				—		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
首里城正殿復元工事に伴う遺構の毀損等を防ぐため、覆砂や発泡スチロールでの保護を図るとともに、沖縄総合事務局による水分量計測の実施を指示した。					前年度に引き続き、覆砂等による遺構の保護を図りながら、水分量計測の状況を確認する。		

活動指標名	沖縄総合事務局が実施する水分量計測のデータを基にした「遺構水分量計測値チェック」の実施回数		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	月 1 回	月1回	月 1 回	100. 0%	順調	首里城正殿復元工事に伴う遺構の毀損等を防ぐため、覆砂や発泡スチロールでの保護を図るとともに、沖縄総合事務局による水分量計測の実施を指示した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
○正殿復元工事で遺構が毀損する危険性を除去するため、遺構を覆砂や発泡スチロールで保護した。また土中の遺構の状況調査を目的に、水分量計測機器の設置を沖縄総合事務局に指示して、定期的な水分量の把握に努めた。 ○今回の保護措置により、復元工事中に遺構が毀損する危険性が除去できただけでなく、再公開までの期間の適切な保護が可能となった。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○正殿遺構の再公開の時期や公開後の保護措置等については、文化庁や沖縄総合事務局等の関係機関と協議しながら、適切に対応する。 ○引き続き水分量計測で土中の遺構状況を把握するとともに、再公開時に遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と連携して速やかに対応する。	首里城正殿遺構を覆砂や発泡スチロールで保護し、土中の水分量を把握することは、復元工事中に遺構が毀損する危険性の除去だけでなく、再公開までの期間の遺構状態の安定化や、復元工事の円滑な進捗にも寄与している。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	当初予定では復元工事の最終段階で再公開を実施することだが、沖縄総合事務局から工程等の都合で再公開の時期を早めたいとの依頼があるため、時期や公開後の保護措置等について対応する必要がある。	② 連携の強化・改善	正殿遺構の再公開の時期や公開後の保護措置等については、文化庁や沖縄総合事務局等の関係機関と協議しながら、適切に対応する。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	水分量計測で土中の状況を把握しているが、再公開時に遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と速やかに連携して対応する必要がある。	② 連携の強化・改善	引き続き水分量計測で土中の遺構状況を把握するとともに、再公開時に遺構の毀損等が発生した場合は、関係機関と連携して速やかに対応する。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に係る文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○首里城及び周辺文化財の発掘調査の成果発信
主な取組	首里城及び周辺文化財の情報発信		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・最新デジタル技術を活用し、首里城及び周辺文化財の発掘調査の成果発信に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
デジタル技術等を活用して、首里城及び周辺文化財の発掘調査成果に関する情報を広く発信する。	県	県立埋蔵文化財センターにおける企画展の開催、首里城及び周辺文化財に関する発掘調査成果の情報発信		
		首里城及び周辺文化財に関する企画展の開催回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課	【 098-866-2731 】		関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)			
予算事業名	－				予算事業名	－		
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度			
					主な財源	実施方法	当初予算額	
－	－				－	－		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画			
首里城跡及び周辺文化財に関する情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行うとともに、県立埋蔵文化財センター等で企画展を開催した。					前年度に引き続き、首里城跡及び周辺文化財の情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行い、埋蔵文化財センター等で企画展を開催する。			

活動指標名	首里城及び周辺文化財に関する企画展の開催回数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	1回	1回	1回	1回（2回）	100.0%	順調	首里城跡及び周辺文化財に関する情報を広く発信するため、発掘調査報告書のウェブ発信を行うとともに、県立埋蔵文化財センター等で企画展を開催した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
首里城跡及び周辺文化財の情報については、発掘調査成果をまとめた報告書の電子データを国立文化財機構奈良文化財研究所運営のウェブサイト「全国遺跡報告総覧」に掲載し、閲覧やダウンロードが可能となることで、広く情報の公開及び発信を行うことができる。また県立埋蔵文化財センターでは、国の重要文化財に指定されている首里城京の内跡出土品を中心とした企画展を毎年開催して、積極的に情報の発信及び公開に努めている。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国遺跡報告総覧」へ逐次掲載するよう依頼する。 ○Webでの情報発信を進めていない機関については、「全国遺産報告総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す。	○令和5年度に県立埋蔵文化財センターが刊行した発掘調査報告書の電子データを「全国遺跡報告総覧」に追加で掲載し、広く情報の公開及び発信を行った。 ○国の重要文化財に指定されている首里城京の内跡出土品を中心とした企画展と文化講座を実施することで、首里城跡の調査成果等に関する情報発信を積極的に行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国遺跡報告総覧」へ逐次掲載を行うよう依頼する必要がある。	① 執行体制の改善	今後も蓄積される発掘調査成果等の情報については、県立埋蔵文化財センターから「全国遺跡報告総覧」へ逐次掲載を行うよう依頼する。
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	ウェブでの情報発信を進めていない機関については、「全国遺産報告総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す必要がある。	② 連携の強化・改善	ウェブでの情報発信を進めていない機関については、「全国遺産報告総覧」の活用等も含め、積極的な公開を促す。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に関する文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○被災した文化財等の修復・復元や琉球王朝時代の文化財等の所在調査
主な取組	県指定文化財の修復		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・関係機関と連携の下、被災した文化財の修復・復元や国内外に所在する琉球王朝時代の文化財等の所在調査に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
首里城火災により被害を受けた県指定有形文化財(琉球漆器2点)の修理を行う。	県	首里城火災で被災した指定文化財2件の修復		
		修復を終了した文化財の件数(累計)		
		—	1件	1件(2件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	黒漆牡丹七宝繫沈金食籠修理事業				予算事業名	黒漆牡丹花鳥虫七宝繫沈金食籠修理事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
県単等	委託	791	791		主な財源	実施方法	当初予算額
					県単等	委託	2,744
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
修理方針に基づいて、塗膜を強化するために膠・漆を充填するほか、欠損部分には下地づけを行い、漆固めを行い、修理に着手する。					より破損の激しい『黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠』の修復に着手を始める。		
活動指標名	修復を終了した文化財の件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	1件	1件	100.0%	順調	令和3年度から3か年かけて、県指定有形文化財「黒漆牡丹七宝繫沈金食籠」を修復する。令和5年度末修復を完了した。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和3年度から修復に必要な調査および修復を実施し、3年間の修復計画に沿って進めていた琉球漆器1点については、令和5年度内で修復完了となった。修復が計画通り履行されたため、「順調」と判定した。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○ 所有者と連携し、首里城火災で被災した美術工芸品の現状や修復状況、今後の取り組みなどをパネル展示して、文化財の維持に関する普及活動に取り組む。				○ 修復が完了した当該文化財について、所有者よりHP上で報告書が掲示される予定である。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況（内部要因）	修理方針にしたがい、予定されていた期間内で修復を完了した。	② 連携の強化・改善	令和6年度より新たに修復を行う予定の文化財については、過去3カ年で修復を実施した文化財よりも毀損が激しいことから、修復の進捗について所有者と適宜情報共有を行う。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	③首里城に関する文化財等の保護・復元・収集
			施策の小項目名	○被災した文化財等の修復・復元や琉球王朝時代の文化財等の所在調査
主な取組	在外琉球沖縄関連文化財調査		対応する成果指標	首里城関係文化財のWEB公開の累計アクセス件数
施策の方向	・ 関係機関と連携の下、被災した文化財の修復・復元や国内外に所在する琉球王朝時代の文化財等の所在調査に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
令和5年度に、米国内において、沖縄戦の際に持ち去られたとされる琉球王国時代の美術工芸品が発見され、沖縄県に移送された。令和6年度に当該美術工芸品の真贋鑑定に係る詳細調査を実施する。	県	戦災や火災で失われた文化財情報の補完を目的とした県外・国外に所在する文化財の調査		
		在外琉球沖縄関連文化財の調査地数(累計)		
		—	—	1カ所
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【 098-866-2731 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	在外沖縄関連文化財調査				予算事業名	米国返還分風調査事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
県単等	直接実施	0	0		主な財源	実施方法	当初予算額
					県単等	直接実施	2,432
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
引き続き、新型コロナ収束後の令和6年度の調査再開を目指すとともに新たな調査先の検討を行う。					有識者による「返還文化財保存修復検討委員会」を設置し、令和5年度に米国より返還された文化財について、詳細な科学分析を実施する。		
活動指標名	在外琉球沖縄関連文化財の調査地数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	-	-	-	-	0.0%	未着手	引き続き、新型コロナ収束後の令和6年度の調査再開を目指すとともに新たな調査先の検討を行う。
進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果							
令和5年度は新型コロナウイルスの社会的影響下から抜け出していなかったため、在外調査は実施していないため「未着手」とした。							
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和5年度の取組改善案				反映状況			
○ 県立博物館・美術館と情報共有を図り、調査の効率化を図る。				令和5年度中に沖縄戦の際に米国へ持ち出された文化財が発見・移送されたことにより、文化財調査にかかる情報共有については中止し、文化財に関する科学分析について情報共有を行った。			

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制（内部要因）	米国からの文化財返還に伴い、当該文化財にかかる詳細調査の方法を検討する必要がある。	② 連携の強化・改善	有識者委員会など関係機関から、助言を適切に受けて科学分析の手法を決定し、今後の保存修復に向けた体制を整える。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ア	首里城の復興	施 策	④首里城に関連する伝統技術の活用と継承
			施策の小項目名	〇工芸技術等の伝承者養成に向けた体制の整備
主な取組	無形文化財工芸技術の保持団体・保存会等の伝承者養成事業の実施		対応する成果指標	工芸技術研修（漆芸・木工）累計修了者数
施策の方向	・文化財等保存技術の習得に関する体制や工芸技術等の伝承者養成に向けた体制を整備し、適正な技術の継承に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
琉球王国時代から伝承されている高度な工芸技術を次代に継承するため、国および県の無形文化財工芸技術の保持団体・保存会等の伝承者養成事業を実施する。	国,県	指定文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業の実施		
		伝承者養成事業の実施件数(累計)		
		9件	9件(18件)	9件(27件)
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【 098-866-2731 】	関連URL
				https://www.pref.okinawa.jp/edu/bunkazai/madoguchi/soshiki/bunkazai/index.html □

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名 無形文化財（工芸技術）伝承者養成事業					予算事業名 無形文化財（工芸技術）伝承者養成事業		
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
県単等	補助	1,848	2,032		主な財源	実施方法	当初予算額
					県単等	補助	2,065
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
国（6団体）および県（3団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施した。					国（6団体）および県（3団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施する。		

活動指標名	伝承者養成事業の実施件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	9件	9件	9件	9件（18件）	100.0%	順調	国（6団体）および県（3団体）指定無形文化財工芸技術等の保持団体・保存会等における伝承者養成事業を実施する。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
本事業は高度な技術者の養成を目的としており、複数年かかる。実施件数が目標値を達成したことや伝承者の減数がみられないことから、「順調」と判定した。	

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○ 各保存会との連携をさらに強化し、本事業における成果の発信方法を工夫し、伝承者の確保と事業の周知を図る。	各保存会および各保存会所在の市町村担当課との情報交換をおこない、成果発表会（展示会）の実施状況について確認を行った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	伝承者養成事業の成果発表会（展示会）を企画するなど、関係機関との連携を行い成果の発信方法を再考する必要がある。	② 連携の強化・改善	各保存会、市町村との連携をさらに強化し、博物館施設やインターネットなどで本事業の成果発信を図る。